

令和6年度第2回青谷地域振興会議議事概要

日時：令和6年5月28日（火）午後1時30分～3時20分

会場：青谷町総合支所第2・3会議室

【出席委員】

長谷川和郎、浜江和恵、徳田章人、松下達夫、久野浩太郎、植田 隆、前田幸一、松岡礼子、大石剛史、大谷 茜

【事務局】

佐々木支所長、田中副支所長兼地域振興課長（併教育委員会事務局青谷町分室長）、高野産業建設課長、金崎市民福祉課長、山田地域振興課長補佐

【日程】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議題

【報告事項】

- (1) 青谷地域生活交通について (資料1)
- (2) 青谷かみじち史跡公園の現状について (資料2)

【協議事項】

- (1) 地域振興未来会議（仮）について (資料3)
 - (2) 令和7年度 青谷地域振興特定予算にかかる提言について (資料4)
- 6 その他 (資料5)
 - 7 閉会

≪議事概要≫

<報告事項>

(1) 青谷地域生活交通について

事務局より説明

【委員】2枚目の長和瀬絹見循環線の51便が275人と多いが、ここは長和瀬夏泊絹見の人も乗っているということか。それと、この表によって、利用状況を検討しながら今後合理化していく様なことは考えているのか。

【事務局】51便は絹見を出て青谷小学校に行く便です。主に利用者は小学生の方、絹見・

吉川・城山・栄町の児童が乗られるので、多くなっています。また、絹見から中学生が乗られる他、絹見と城山から大人の方が乗られることもあります。

次に 2 点目の見直しの話ですが、見直しをすぐにしていくことは考えていませんが、並行して利用促進の働きかけをしていただければと思っております。

【委員】バスを利用された方から、とってもいいよとすごく高評価と聞いている。

乗降場所の融通を利かしてもらい、最後の人はちょっと近くまで運んでもらったりしており、利用されて満足していると言われた。

【事務局】利用者の希望に合わせて柔軟に対応しています。

【委員】これまでの定時バスより、とてもいい。

【事務局】とても便利な運行をしているので、ぜひ皆さんに乗っていただければと思います。

(2) 青谷かみじち史跡公園の現状について

事務局より説明

【委員】建物の施設名の表示が小さく、目立っていないように思う。今後史跡公園内のグラウンドオープンまでにいろいろ看板も増えていくのではと思っているが、もう少し目立つ工夫を考えていただければと思う。

【事務局】史跡公園を訪れる方への案内表示については、自動車・徒歩など交通手段に合わせて案内表示しているところです。自動車で来られる方については、県道や国道、インターの入口などに案内表示を設置しています。総合支所でも旧展示館の看板の撤去や、青谷駅周辺に臨時看板を設置する等の対応を進めており、来園者が迷うことがないように計画実施しているところです。

指定管理者によれば、ゴールデンウィーク中に駅を降りられて道に迷ったという意見は特になかったと聞いておりますが、委員のご意見については史跡公園にお伝えいたします。

【委員】せっかくこうして街中の店舗案内のチラシも作っているが、実際に街中を歩かれて、お店に行く方とか、一旦かみじちの駐車場に車を停めて駅の方に戻ってくる等、要はお店の周遊に繋がっているのか、聞き取りしているか。

【事務局】直接的の聞き取りは行っていませんが、配布しているチラシ・マップについては、配布先の道の駅等でもう無くなってしまい、追加で配布しているので、周遊に活用いただいていると考えています。

【委員】期間限定でもいいので 1 回聞き取り調査を行ってみてはどうか。せっかくグルメもできてるし、イベント的にだけではなくて、日常的にどれぐらいあるのかを調べて、それで何が原因でそうなのかを見ていかないと対策が取れないと思うので、お願いです。

【事務局】おもてなしプロジェクトの中で協議しながら検討したいと思います。

【委員】弥生グルメのお店に 1 ヶ月でも半年でもいいのでアンケートを取られるのが一番

確かな結果が得られるのではないか。

【委員】青谷駅を利用した人が何人いるか JR に聞いて分からないか。

【事務局】以前に史跡公園に一度伺ったのですが、現在はアンケート等とはとられていないとのことです。

【委員】史跡公園の方をお願いをして、交通手段のアンケートがそこで取れたら、車か JR かバスか、そういう内容を含めたアンケートなら、現状を知る手段になる。

【委員】駅前の看板が、工事看板みたいなものだが、自分が駅から降りてあれを見たら「うん」って思うので、ゆくゆく綺麗になるものなのかずっとあのままなのか。

【事務局】今置いてある看板はゴールデンウイーク対策という趣旨です。看板自体は指定管理者さんの方に作っていただき、地権者さんの方にご協力いただいて設置しております。6月以降についてまだはっきりまだ続けるかどうか決まってないので、検討していくところです。

【委員】駅の観光案内所のところですが、最初に案内したバスの待合所、駅に置いてないとあそこは駅の構内いろいろ JR で来られた方がチラシマップがあると見て行けるかなと思った。人が来たのでできれば史跡公園だけでなく町内を歩いてもらいたい、立ち寄ってもらいたいという思いがあるので、何とかそういう取り組みの一つとして、いろいろ工夫もした方がいい。

【事務局】JR や史跡公園と検討していきます。

<協議事項>

(1) 地域振興未来会議（仮）について

地域振興課長から説明

【委員】新しい委員は、高齢者はなるべく除いて、大学生高校生みたいな人を選んでほしい。

【事務局】条件で18歳以上ということで高校生は難しいですが、大学生はOKですので、若い人たちの意見も取り入れたらどうかということで、参考にさせていただきます。

【委員】市全体のことで無く、地域のことを話すのは良いが、ただの世間話をして終わりということにならないよう、具体的に議論のテーマを決めて、ここで結論を出すぐらいじゃないと意味が無いので、その辺りを考えていただきたい。

【委員】要はベースとなるところの立案が重要。たたき台をしっかりと欲しいということ。

【事務局】新市域振興ビジョンがございまして、進捗チェックについて昨年12月に開催しました地域振興会議で説明しましたが、その様な内容がベースにはなるとは思いますが、それ以外にも地域の課題で優先すべきものがありましたら、当然盛り込んで行く形になると思います。

【委員】地域未来プランはどこが作られるのか。市の方で作られるのか。

【事務局】地域未来振興プランにつきましては、事務局の方で案はお作りしますが、その案

を現在の地域振興会議の本年度中に作成する必要があります。完成したプランは来年度からの地域振興未来会議で進捗管理をしていくことになります。

(2) 令和7年度 青谷地域振興特定予算にかかる提言について

地域振興課長補佐から説明

《青谷オープン卓球大会補助金》

【委員】卓球の小中高の活動人数は把握しているか。

【事務局】青谷高校は6人、青谷中学校が14人、小学校はいないと聞いております。

【委員】オープン卓球大会が最初にできた頃と実際、県内の中学校のその部活の様子も大きく変わってきているので、例えば考え方を改めて、このオープン卓球でそのプロの人だとか、そのOBとか上手な人から、教えを受けることを目的として、例えば、学校ごとの団体戦とかではなく個人戦にする等、人数が少ない学校でも、参加しやすい形とか、あるいは学校単位じゃなくても参加できる様な色々な考え方があってもいい。また、幅広く子供たちを集めるっていうのであれば、例えば県内の中学校には全部案内を出す等何か工夫を今後していくべきと思う。

【委員】青谷町の予算として執行するのであれば、何とか中学校・高校など地元で活躍する子供たちに何か還元できるような方法が一番いいと思うので、大会のやり方を含めてより良い方法を検討していく必要があると感じた。今まで40万使って、実際に一生懸命やっているが、参加無料で遠くから集めて、でも地元には残らないっていうのであれば、やっぱりちょっと寂しいなという気がするので、青谷町として予算を立ててやるのであれば、何とか地元で学ぶ子供たちに何か還元できるやり方、大会運営というのを工夫してもらいたいと思う。

《青谷ようこそ夏まつり事業費》

【委員】以前あった打ち上げ花火が実施できていないことについて、説明してほしい。

【事務局】山陰道の開通に伴って、打ち上げにあたって周辺の安全上の問題が発生したためと聞いております。 ※改めて商工会に確認したところ、周辺の水田の地権者から了解が得られなくなった為とのことでした。訂正いたします。

【委員】気高が今中止してるのは、魚が獲れないと漁協が反対した為と聞いた。

【事務局】商工会が今年は花火を上げる方向で実施可能な場所を検討しているとのことです。

【委員】ダイキンアレスも花火を上げているが、公開されていない。

《青谷地域賑わい創出事業補助金》

【委員】青谷ようこそ夏祭り事業と当該事業はなぜ別々なのか。

【事務局】夏祭り事業に関しては、商工会が事業主体ですので、商工業の振興などを主な目的としたイベントとなっています。賑わい創出事業の方は、因州和紙の産地強化ですとか、青谷上寺地遺跡を活性化などが目的になりますし、この青谷ようこそ市場もどちらかという大きなお祭りというよりは、いわゆるマルシェ的な内容で継続的な地域の賑わいを作っていくような位置付けとなっています。

【委員】（ようこそ夏まつりは）商工会が事業主体、賑わい創出は実行委員会が事業主体ということで、主体が違うから分けているという整理で良いか。

【事務局】はい。

【委員】元々は夏まつりは商工会事業、賑わい創出はようこそ祭りから来ているので、それで分かれているものと捉えている。

【委員】賑わい創出、ようこそ夏まつり、観光キャンペーン事業は、大きな目的としては賑わい創出になるが、その枝葉が多くなっている印象なので、一旦見直しをして効果的な事業の実施方法を検討していただきたい。

【事務局】事業を実施されている商工会にも非常に協力いただいているところですので、そういった関係団体とお話をしながら、検討する形で進めさせていただけたらと思います。

《青谷上寺地遺跡地域利活用運営事業費》

【委員】地元には高校がある地域ってあまり他市町では多くないと思うので、せっかくあるのであれば、その高校生を地域活動に、例えば人員不足でいろんな活動が困難になっている団体もあったりするのでそういうときに出てきてもらうとか、それから若い方の意見も聞くという、前回青谷高校を支援する会の話がされたと思うんですけど、その会なんかも含めて、その高校生をどんどん地域に交流をして地域を活性化するっていうのも何かあったらいいと思う。本事業では県外からの生徒を支援するものだが、それに絡めて取り組めたらいいと思う。

【事務局】これまでも、青谷高校の参加については、昨年度あおいちの方に吹奏楽の方にも出ていただきましたし、抽選の役でありますとか、ちびっこ広場の運営などやっていただいたりとかもありました。他にも町内のイベント等にはできる限りは参加していただいているところです。

【委員】高校生の若い意見とかアイデアとかいろんなものを持っていると思うので、そういうものも例えば聞くような機会があればいいし、そういうのを生かすっていうのもいいのかなと思う。現場だけでなくプランニングのところからでも若い考え方を活用できる体制ができればいいという話。

【委員】本事業は、今1名ですけど、努力してもらってずっと続けてほしい。1年生が3年を終えたらやめる、ではなく長期的に継続していけるよう努力してほしい。

【委員】この六つの事業については、地域振興未来プランに入るという前提で今議論してい

るといふことでよいか。基本的にはどの事業も多分入っておかしくないと思うが、この会議で事業の進捗管理をするとなれば、例えば事業を見直すときに、維持するのか、拡大するのか縮小するのかを基本的に議論しますよね。そういうことをこのメンバーで言えるのかということを確認したい。

【事務局】地域振興ビジョンの進捗チェックは昨年も実施したとおり事業の成果を確認するようなイメージだと思います。委員がおっしゃる通り具体的にこの場で話をして、決められるものではないです。

【委員】要するに意見を述べるができる程度という話ですね。最終的に決めるのはここが決めるんじゃないで、市が決めるのだと思う。予算の話ですから。

もう一つ聞きたいのがですね、未来会議とプランの話でこれをスケジュールによると、9月議会で、議会承認を得た上で決定という認識でいいんですか。

【事務局】この括弧の案が取れるのは、議会承認後ということなんです。本日の内容も地域振興未来会議がこういう形で流れていくことの承認でして、9月の段階で支所ごとのプランについての承認ということではないというふうに考えております。まだそれ以降も修正の余地はあるという認識でいるわけです。ただそうは言っても年度末3月に入れるわけにいかないの、予算もありますので、そこまでではないですが、9月か大体それに近いところである程度の方向性立てというものしていきたいです。

【委員】ここで意見を申し上げたいのはこの未来振興会議あるいは未来プランについて、このメンバーでしっかりそれをそのための日をとって議論する必要があると思う。それは計画されている6回以外でもいいから、徹底して議論すべきだと私は個人的に思うがいかがですか。

他の事業の中で一つの項目としてこの議論をするんじゃないで、この議論だけをする会合を1回きちんと設けるべきではないかなと、これ非常に大切な会議というか、6、7年度以降の話があるのでここで決まった内容で、次我々がそのメンバーに入るかどうかはまた別の議論になると思いますけど、でも多くの人が入っていかないと、継続性がなくなりますよね、というようなことも含めてちょっときちんと議論した方がいいと個人的には思います。どうでしょうか。

【委員】確かに皆さんからも意見を求めているんだけど、深く議論しようとしても時間がなさすぎるので、そういう（議論の）時間を作った方がいいのではないかというご意見です。

【事務局】ちょっとすぐこの場で回答は難しいですが、非常に前向きなご意見だと思いますので、あとはまた会長に諮ってお話させていただいて、できるだけそのような方向でいければと考えております。

<その他>

- (1) 地域振興会議ブロック会議について
- (2) 青谷ようこそ市場事業（あおいち）について

(3) 因州和紙後継者育成研修研修生募集について

(1)～(3) 事務局より説明

(4) 定置網朝市について

【委員】朝市の品数が少なくて買えないことがあるが、隣の漁協と連携して出すことはできないか。

【事務局】朝市ですが、こちらの認識では前回5月25日の状況で、朝市が復活して最多の170人来られました。開始が10時からで8時20分から並び始められまして10時にはもう90人を超える人が並んでいる状況でしたが、最後の人まで魚を買えました。10時開始で終了が11時前でしたが、魚種は確かに白いかなど人気のものから減りますが、1匹も買えないということはありませんでした。また、県漁協とは定置網だけではなく他の網等もありますので、その魚も売れないかっていう話も現在していますし、それから今委員が言われた様な魚が少ない場合に、泊の定置網から持って来られるか、という議論もしています。そういう検討はしていますが、そこまではやってないという状況です。

【委員】この取組には期待している。もっと大きな事業になるような気がしている。

【事務局】今後定置網漁を見学しようというツアーが始まります。定置網を見学して、その後獲った魚を料理していただくツアーです。

以上。